

市教育委員会が新体制に 新教育長に大山和彦さんが就任

おやまかずひこ



5月10日、大山和彦教育長（前県教育研修センター副参事）に辞令が交付され、就任式が行われました。大山教育長（57）は小林市南西方出身で、市教育指導監や細野小校長、県教育委員会教職員課長などを歴任。就任式で「次の小林的まちを支える子どもたちをしっかりと育成していくことが私の定め」と抱負を述べました。

前任の中屋敷史生教育長（3期10年）は5月9日付で任期を満了し勇退しました。

中屋敷史生前教育長
退任式の様子



中屋敷さんは、平成26年5月10日から本市教育長として市の教育行政を牽引。「学び」と「健康」を大切にしながら、豊かで創造的な生活を送ってほしいという願いを込めて、『『学びたい』『学ばせたい』気持ちを高める小林教育』を教育目標に設定。

教育目標の実現に向けて、就学前から成人、高齢者を含めた生涯学習社会に対応した「0歳から100歳までの小林教育プラン」を作成し、目標の実現に向け、さまざまな事業に取り組んできました。

「ともに学び、ともに育つ」小林教育をめざして

ふるさとである小林市の教育に携わる機会をいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。「まちづくりは人づくりから」と言われるように、これからも光り輝く小林市であり続けるためには、教育が大きな役割と責任を果たさなければなりません。子どもたち一人一人が、夢の実現に向けてたくましく生きていく力を身に付けるとともに、市民の皆さまが生涯にわたって学び続け、健康で生き生きと暮らすことができるように、教育行政の推進と充実に努めてまいります。皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。「大山和彦」

姉妹都市「石川県能登町」への支援を継続 土木技師2人を長期災害派遣、支援物資第6弾を発送

5月16日、姉妹都市「石川県能登町」へ災害派遣される職員の出発式を行いました。派遣されるのは尾山直人主幹と井之上景也主任技師の2人で、派遣期間は令和7年3月末まで。

本格的な復旧・復興を目指すうえで、専門的な知識と経験を持つ技術者を長期的に派遣してほしいとの能登町からの依頼を受けて派遣するもので、現地では道路や橋りょうの復旧業務に従事する予定です。

出発式では代表して尾山主幹が「能登町の皆さんが少しでも早く元の生活に戻れるよう、精一杯の支援をさせていただきます」と誓いました。

また、5月14日には、小林商工会議所、野尻町商工会、すき商工会と合同で、能登町へ第6弾となる支援物資を発送。

今回は、避難所で使用するタオルケットや敷パット、簡易トイレ用凝固剤などを被災地へ届けました。



写真⑤ 出発式で決意表明する尾山主幹と井之上主任技師

写真⑥ 5月14日に発送した支援物資積み込みの様子 写真⑦ 4月25日には宮原市長が能登町を訪問して大森凡世町長と会談。今後も人的・物的支援を継続していくことを確認したほか、被災地の現状を視察しました。

